

[松河戸を知ろう]

松河戸町の沿革

目次

- 1 【はじめに】松河戸の概要
- 2 美しい田園地帯
- 3 暮らしと川
- 4 暮らしと道
- 5 風習と習慣（神事、慣習、組織）
- 6 地名
- 7 小野道風伝説
- 8 十五の森の悲話
- 9 神社仏閣
- 10 自治組織
- 11 松河戸の人口

【はじめに】

◎ 「1 松河戸の概要」は、松河戸沿革全体の概要です。

「2 美しい田園地帯」以降は、それぞれのタイトルに基づいて、より詳しく記載しています。

◎ 松河戸の沿革は少しずつ変化しながら今日に及んできましたが、今回の区画整理により大きく変化し、姿を消したものも多くあります。先人、先輩方の文献、お話をもとにご紹介します。

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会編集

郷土誌かすがい

本堂再建記念誌 巨獄山観音寺

松河戸土地区画整理事業の歩み 春日井市都市整備課

春日井市史 地区誌編 松河戸 昭和 60 年 3 月発刊

※主に上記文献を基に編集してあります。

◎ この「松河戸町の沿革」は、上記文献記事の転記又は抜粋、先輩方のお話をまとめ編集したものです。編集作業での間違いや追加など補筆訂正がありましたらご連絡ください。

2019 年 6 月

編集責任者 長谷川 浩

松河戸町の沿革

1 松河戸の概要

(1) 松河戸の土地柄

松河戸は庄内川と支流の中川(地蔵川)の氾濫原の沖積平野で、日本の中でも早い時期(縄文の後期頃)から稲作耕作が発祥しました。この地域一帯では、庄内川の洪水が頻繁に起こったものの、それにより肥沃な土地と豊富な水利用や知恵と工夫により、古代から稲作を中心とした人間の営みが安定して展開された場所であったと考えられます。

松河戸一帯は、古代・中世に、天皇家に納めるコメを作っていた「安食荘」と呼ばれる東限の一部とされています。

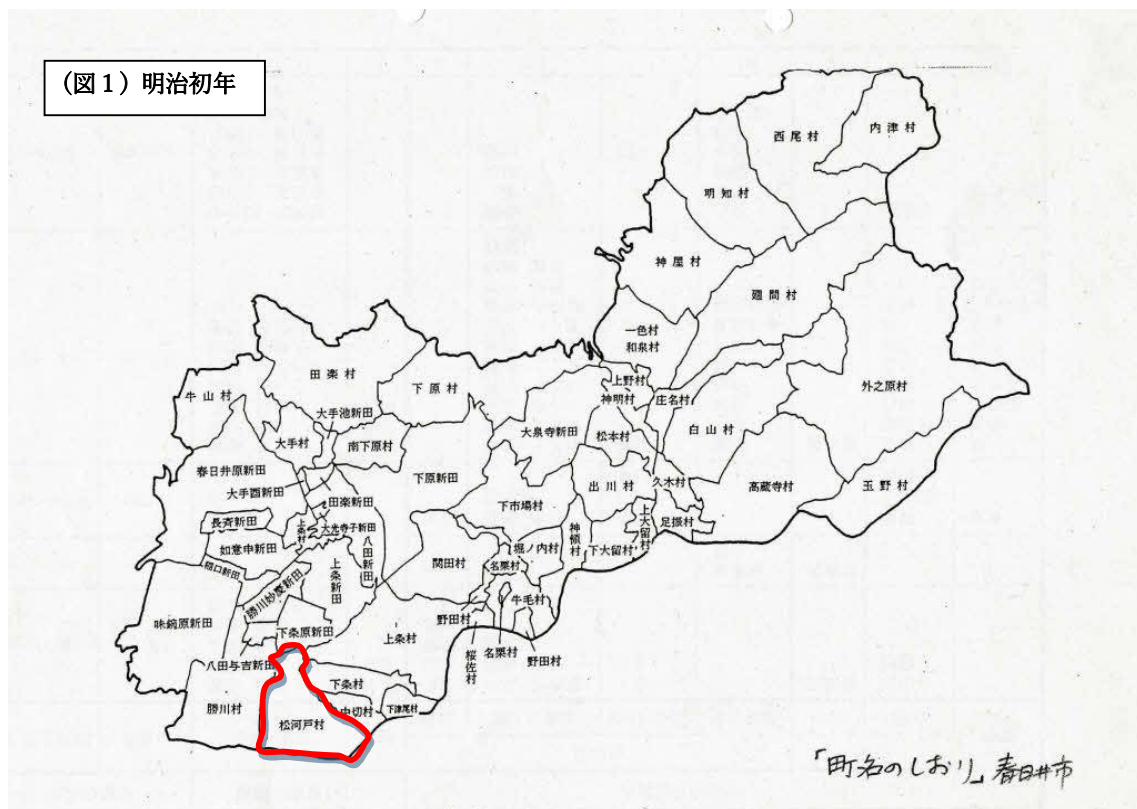
松河戸北部には「条里制」と呼ばれる計画的な水田開発に基づいた整然と広がる水田が、今回の区画整理が行われる今まで残っていました。

このような土地柄であったからこそ、「小野道風の父(小野葛^{おののくずお}紘)が何らかの理由で松河戸に滞在していたとき里人の娘との間に生まれたのが道風だった。」という伝承も納得できます。

室町時代になると大きな荘園がくずれて、現在の村が起り始めます。集落の中に寺や神社が作られるようになり(明応3年 1494 年白山神社再建、十五の森悲話)、村を中心とした農業の生活、制度がこの頃から起ります。

松河戸の白山神社、観音寺、昌福寺もこの頃創建されており、15の森の悲話もこの頃の出来事でした。

集落は、庄内川堤防下の周りより一段高い所にある、かたまり単位を「島」と呼んで、村の中の最小自治組織として島ごとに神社もでき、長い間日常生活の中に定着して、安土桃山、江戸、明治、大正、昭和のはじめまで少しずつ変化しながら今日に及んできました。



(2) 明治から今日まで

明治の始めの松河戸は、戸数 186 戸、人口 658 人で、江戸初期からほとんど変わっていませんでしたが、明治から大正にかけ戸数、人口とも減少していきます。明治 7 年地租が金納になったことで、地主への小作料が上がり生活が苦しく、北海道、名古屋などに移住する人が多くあったからです。江戸時代尾張藩は年貢米が安く、他の地域より生活が楽であったと思われます。農家一戸当りの耕地が江戸時代 5~6 反から、1 町~1 町 5 反ぐらいに多く耕作しないと生活できなくなっていくます。

旧春日井群松河戸村は、現在の松河戸町に加えて、現在の愛知町、細木町、町田町、松新町、小野町の一部が含まれ、水田耕作面積は 150 町歩でした。(図 3)

明治 22 年には、松河戸、下条、下津、上中切の四か村が合併し小野村となりましたが、明治 39 年に、小野村と和爾良村(大光寺子新田、八田新田、上条村)と合併し、鳥居松村になり、この地の住所は、鳥居松村大字松河戸となりました。(図 2)

その間の明治 33 年には、名古屋から多治見間に鉄



当時の中央線勝川駅 (東春日井郡誌より)

(図 4) 勝川村の中心から、東へ 1 キロ離れた当時の東春日井群小野村大字松河戸に勝川駅できる)

大正元年には、国による 1 村 1 社合祀令により、松河戸の 9 社の祠を合祀又は境内社とし、白山神社が村社となりました。

昭和 13 年には、庄内川に直径 30 センチほどの丸太を橋桁に使った松河戸と川村の堤防と堤防を繋ぐ本格的な橋が完成し自動車も通れるようになりました。その時の人々の喜びは今も語り草になっています。

(昭和 36 年には現在の鉄筋コンクリー製の松川橋が完成し、乗合バス路線も開通しました。)



道が開通して、この地に勝川駅ができました。

(図 4)



その後、大きな戦争に遭いましたが、昭和 30 年頃までは庄内川沿いに形成された集落と水田・畑が広がる状態が続いていました。(図 5)

昭和 23 年に松新が、昭和 53 年に小野が、昭和 55 年に愛知、細木、町田が松河戸から分離しました。松新は、勝川駅ができて段丘上は市街地として発展したことにより、戦後まもなく松河戸から分離しましたが、他の地域は 30 年代まで松河戸の水田地帯として広がっていました。

昭和 34 年に愛知電機工作所(現愛知電機株)工場が松河戸の南西部(現愛知町)に進出し、この地域が工業系地域に指定されたため、その後も 40 年頃にかけて工場の立地が相次ぎ、人口が急増しました。(図 6)

松河戸周辺の市街地整備については、昭和 40 年代から 50 年代にかけ、南部第一、南部第二、中切、下条地区の土地区画整理事業が組合施行で進められましたが、本地区の中央部から東部にかけては、土地区画整理事業から取り残された形で市外地形成が進みました。(図 7)

都市基盤整備が遅れた本地区においても、当初は組合施行での区画整理の動きがありましたが、環状 2 号線や南部処理場など大規模な公共施設整備が計画され、市街地の整備が急務となったことなどにより、市施行による区画整理事業が 1992 年(平成 4 年)から施行されました。

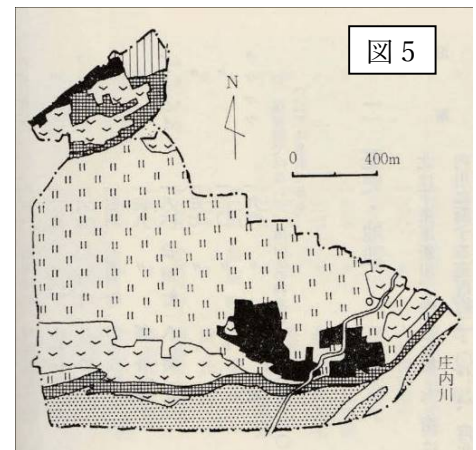
区画整理の工事は、田畑が広がっていた北部から進められたので、そこが完成すると南部の集落から順次移転するかたちとなりました。また、そこには旧住民ばかりでなく、新しく外部からの転入者も増え、松河戸の人口は大きな増加を続けました。特に区画整理が終盤に近付いた平成 27 年、28 年には年 200 人超の人口増加がありその後も増え続けています。

区画整理前(平成 4 年)の人口は 1,432 人、戸数は 489 戸程の町でしたが、この 27 年間(平成 31 年)に人口 3,012 人と 2.1 倍に、世帯数は 1,214 戸と約 2.5 倍となりました。

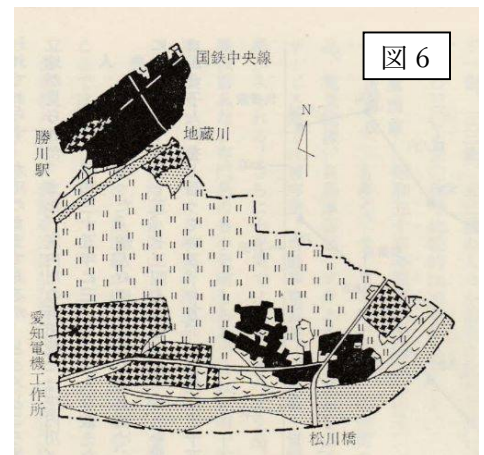
平成 28 年には、24 年間における区画整理事業は終了し、松河戸は市街地に変貌しました。(図 8)

29 年 10 月 14 日に拡充され美しく整備された道風公園において区画整理事業竣工式典が盛大に執り行われました。

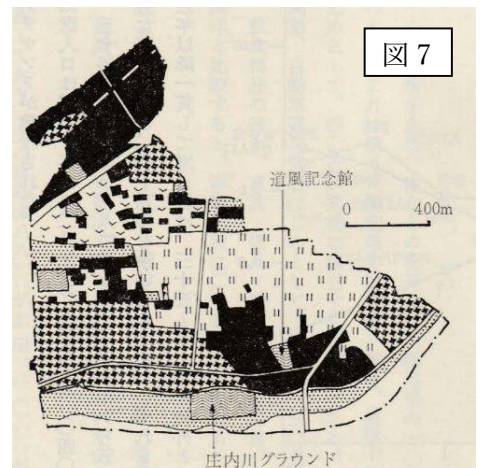
松河戸の土地利用(明治 24 年)



松河戸の土地利用(昭和 36 年)



松河戸の土地利用(昭和 59 年)



2014年（平成26年）撮影



図 8 市街地に変貌した松河戸

(3) 行政区画の変遷

時 代	名 称
近世まで	春日井群松河戸村
明治4年7月	名古屋県第3大区第10小区松河戸村
明治5年4月	愛知県第3大区第10小区松河戸村
明治11年12月	春日井群松河戸村(現在の松河戸町に加えて、現在の愛知町、細木町、町田町、松新町、小野町が含まれる)
明治13年2月	東春日井群松河戸村
明治22年10月	東春日井群小野村大字松河戸(松河戸、下条、下津、上中切の四か村が合併し 小野村 となる)
明治39年7月	鳥居松村大字松河戸(小野村と和爾村(大光寺子新田、八田新田、上条村)と合併し、 鳥居松村 となる)
昭和18年6月	春日井市鳥居松村大字松河戸(勝川町 鳥居松村 篠木村 鷹木村の4か町村が合併して春日井市が施行)
昭和23年	「松新」が松河戸から分離
昭和53年	「小野村」が松河戸町から分離
昭和55年	「愛知」、「細木」、「町田」が松河戸町から分離



図 9 現在の松河戸町周辺の行政

古来から松河戸の区域は、現在の松河戸町に加えて、愛知町、細木町、町田町、松新町、小野町の一部が含まれる区域でした。

戦後まもなく昭和23年に「松新」が分離し、昭和53年に「小野村」、昭和55年に「愛知」、「細木」、「町田」が分離したことで現在の区域となりました。

は、松河戸から分離した町

松河戸の年表

西 暦	元 号	内 容	人口	戸数
	縄文後期	松河戸の米作り始まる。日本の中でも早い時期から稲作耕作が発祥した。		
	弥生前期	環濠集落による稲作が盛んに行われていた。		
645		大化の改心が起こる。松河戸に条里制ができ 36 町歩で始まる。		
894		小野道風が松河戸で生まれる。		
904 頃		小野道風 10 歳のころ父と京へ帰り書で身を立てることとなる。		
966		小野道風 73 歳で亡くなる。		
1300 年代 後半		室町時代になると大きな荘園がくずれて、現在の村が起こり始める。		
		村を中心とした農業の生活、制度がこの頃から起こる。 安土桃山、江戸、明治、大正、昭和のはじめまで少しずつ変化しながら今日に及ぶ。		
1394	応永元年	上条用水が、上条、下条中切、松河戸、勝川の五ヶ村でできる。		
1494	明応 3 年	白山神社再建される。十五の森の悲話		
1584	天正 2 年	小牧長久手の戦いが起こり 里人も大きな犠牲となり苦しめられた。 勝川、下津、松河戸、野田の渡しは、豊臣方の立てこもった松洞山に襲撃する徳川方の渡河で大激戦となった古戦場である。		
1672	寛文 12 年	1375 石	641	110
1822	文政 5 年	1856 石	792	190
1868	明治元年	春日井郡旧松河戸村は、現在の松河戸町、愛知町、細木町、町田町、松新町、小野町の 6 町からなる。 下条、松河戸にあった寺子屋が整えられ私塾となる。 8 月大留村、神領村、上条村、下津尾村、志段村、松河戸、勝川地内で堤防破壊 松河戸の水田耕作面積 150 町歩	明 治 7 年 658	186
1876	明治 9 年	上条、八田新田、大光寺子新田が合併して「和爾良村(かにら村)」となる。		
1878	明治 11 年	松河戸学校、下条原学校が開設		
1880	明治 13 年	春日井群が東西に分割され、東春日井郡松河戸村となる。		
1889	明治 22 年	10 月松河戸、下条、下津、上中切の四か村が合併し小野村となる。 東春日井群小野村大字松河戸		
1890	明治 23 年	「松河戸学校」と「下条原学校」が合併し、「小野学校」と改称し、松河戸八反田(現在の(株)古川電機近く)に設置される。市内で最も早く開校		
1891	明治 24 年	濃尾地震が起こる。松河戸にも大きな被害		
1892	明治 25 年	「小野学校」が「小野尋常小学校」と改名される。春日井市内で最も早く開校		
		この頃、地租改正で生活苦しく、北海道、名古屋などに移住する人が多くあり		
1900	明治 33 年	名古屋から多治見間が鉄道開通し、勝川駅、高蔵寺駅ができる。 (勝川村中心から東に 1 キロ離れた当時の東春日井群小野村大字松河戸に勝川駅で きる)		
1906	明治 39 年	7 月小野村と和爾良村(大光寺子新田、八田新田、上条村) 合併し、鳥居松村になる。 東春日井群鳥居松村大字松河戸		
1912	大正元年	国による 1 村 1 社合祀令により、松河戸の 9 社の祠を合祀又は境内社とし、白山神社が村社となる。		
1916	大正 5 年	松河戸に電灯がつく。		
1929	昭和 4 年	12 月「小野尋常小学校」が現在の「小野小学校」の現在の位置に移転する。 その時、15 の森伝説のクロガネモチも移植される。		
1930	昭和 5 年	この頃、屯田兵となるもの、名古屋、松新などへの移転が増える。 戦前までは、水田と養蚕が盛んに行われる。	537	107

西 暦	元 号	内 容	人口	戸数
1933	昭和 8 年	庄内川の流れの部分にのみ欄干のない木橋が架けられた。松河戸の渡しは廃止		
1936	昭和 11 年	小野尋常小学校で県下児童生徒席上揮ごう大会始まる。		
1938	昭和 13 年	堤防と堤防をつなぐ本格的な木の松河戸橋が完成する。(自動車も通れる)		
1941	昭和 16 年	国民学校令により「小野尋常小学校」の名称が「小野国民学校」となる。		
1942	昭和 17 年	昭和 14 頃まで通年運航されていた下津の渡しは、松河戸橋が架けられたことで、廃止された。しかし、竜泉寺の節分や初観音の時など利用客が多い時は運航し 1965 年(昭和 40)頃まで続いた。		
1941	昭和 18 年	6 月 勝川町 鳥居松村 篠木村 鷹木村の 4 か町村が合併して春日井市が施行される。勝川の旭町の旧東春日井郡役所跡をしばらくの間、仮庁舎として使った。春日井市鳥居松村大字松河戸		
1944	昭和 19 年	国内の大家が出席して小野道風公生誕 1 0 5 0 年祭(道風祭)が盛大に行われる。		
1944	昭和 19 年	12 月尾張地方に大地震(東南海地震)起こる。		
1945	昭和 20 年	3 月 25 日川原島に 500 キロ爆弾が投下され、家屋消失し死者も出る。8 月終戦		
1946	昭和 21 年	新学制が施行され「小野国民学校」は小「小野学校」となる。		
1948	昭和 23 年	「松新」が松河戸から分離する。 王子町にあった旧鳥居松こうしょうを修復して市役所庁舎とした。		
1949	昭和 24 年	全国公募の書道展である道風展が始まる。		
1950	昭和 25 年	春日井市は、王子製紙春日井工場の誘致を機に内部工業都市として歩み始める。		
1954	昭和 29 年	松河戸の小野道風誕生伝説地が県史跡に指定される。		
1955	昭和 30 年	住民総出の奉仕活動により道風公園完成する。		
1957	昭和 32 年	春日井市で初めて松河戸に都市ガスが入る。		
1958	昭和 33 年	1 月 春日井市は高蔵寺町(23.86km ²)と坂下町(21.26km ²)を合併する。 人口 7 万余、面積 92.71km ² の都市となる。		
1959	昭和 34 年	愛知電機工作所(現愛知電機株)工場が松河戸の南西部(現愛知町)に進出する。		
1959	昭和 34 年	7 月簡易水道供給開始する。		
1959	昭和 34 年	伊勢湾台風の被害大きく倒壊した家数件あり		
1960	昭和 35 年	松河戸に古川電機進出する。 三階建ての市庁舎が鳥居松町に完成する。	935	207
1961	昭和 36 年	現在の鉄筋コンクリー製の松川橋が完成し、乗合バス路線も開通する		
1964	昭和 39 年	9 月伊勢湾台風で松河戸町も大きな被害が出る。		
1965	昭和 40 年	この頃、集落と愛知電気の間多くの工場が進出	1919	359
1966	昭和 41 年	名古屋から多治見間の複線電化完成する。		
1968	昭和 43 年	春日井インターチェンジ開通する。		
1969	昭和 44 年	松河戸に市上水が供給始める。	2247	488
1978	昭和 53 年	「小野村」が松河戸町から分離する。	2194	790
1980	昭和 55 年	「愛知」、「細木」、「町田」が松河戸町から分離する。	1764	553
1981	昭和 56 年	11 月道風記念館が開館する。		
1982	昭和 57 年	道風の書臨書作品展始まる	1725	541
1983	昭和 58 年	9 月区画整理について 1 回目の説明会(組合施行)。 10 月区画整備研究会の発足	1649	520
1985	昭和 60 年	南部浄化センターの設置が決まる。広域公益施設の用地を組合で確保するのが困難		
1988	昭和 63 年	7 月区画整理を組合施行から市施行に変更の要望書提出する。 9 月市施行決まる。	1537	490

